

2022年度がはじまり、第2コムハウスの「19年目」がスタートしました。

この場所がなかまのみなさんにとって、さらに「明日もいきたい場所」になるよう、職員一同、力を尽くしてまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

そして、この第2コムハウス通信が、おかげさまで1000号を迎えました！

今週はその記念号として、初代施設長の宮崎勇さんにメッセージを寄せていただきました。「一歩(1号)」の積み重ねが、こうして「歴史」になるのですね。

祝 1000号!! …みなさんをつなぐ役割に…

宮崎 勇

第2コムハウス通信1000号、おめでとうございます。

「1000号記念にメッセージを」との村松さんからの電話で、改めて、これまでの第2コムハウス通信をめぐって見ました。とてもなつかしく、なかま、ご家族、職員、地域の方々が意欲に燃えていた様子が伺えて、初心に帰ったような思いになりました。

第1号は2004年4月9日でした。ここには、第2コムハウス竣工式、開所式、家族会のスタートのことが、4月16日の第2号には「感謝のつどい(2004年4月10日開催した地域の方に向けた開所記念行事、約300名の方が来所された)」や、この地域で初となる「障がいのある方のデイサービス」のスタートが書かれています。

そして第7号には、デイサービス職員の腰原さんが「きょうTさんがはじめて笑ってくれました」「Sさんは一人で来れるようになりました」と目を輝かせて語ったことや、送迎の職員さんから「Nさんが私の手を握って『お願いします』と声をかけてくださった」「こんなにもうれしい気持ちになりました」と話してくれたことが記されています。

その後の通信も、なかまのみなさんが生き生きはたらく姿を、自分のことのようにうれしそうによろこぶ職員の声や、地域との交流、家族会の活動、作業グループの様子等々が載っています。久しぶりに読み返してみて、この通信が、なかま、ご家族、職員、地域を結ぶ大切な役割になっていたことへの思いを強くしました。

私が第2コムハウスを退職するとき、最後につくった通信は357号でした。あれからこの1000号に至ったのは、職員のみなさんがしっかりと続けてくれたからです。本当に感無量です。

コロナ禍で、まだまだ様々な制約がある日々がつづきます。

こういうときだからこそ、みなさんをつなぐ役割を、この通信が果たしていくことを念じ、また、信じております。

みなさん、コロナ禍を乗り越え、また元気にお会いしましょう。



イラスト作 宮澤和美さん